

国立公害研究所 正会員 近藤美則 大井 紘 須賀伸介
筑波大学 宮本定明 埼玉大学 阿部 治

1.はじめに

同じ地域に住んでいながら、住居の建築形態によって、音に関する意識が異なるのではないかという観点から、高層住宅住民とその周辺の一戸建て住宅住民に音についての感想を求め、これを分析比較した。地価の高騰により、大都市においては住宅の高層化は避けがたい趨勢であり、そこの住民の音に関する意識を的確につかんでおくことは、今後ますます重要なことになると思われる。

2. 調査と解析の方法

調査対象は前報¹⁾と同じ、①東京都板橋区のS団地、②その周辺の一戸建て住宅地、である。この報告では、前報と共通の質問紙で、“お住まいでの「音」についてのご感想を、どんなことでも結構ですから、お聞かせ下さい。”という設問の回答を対象とする。「騒音」でなく「音」としたことの意義は、分析を通して明らかになる。回答は、文章の形で述べられることとなる。分析方法は、自由連想調査²⁾の回答がすべて、文であるとしたとき同じであり、単語データに分解したものを、前報と同じ方法でクラスター分析する。この方法により、水辺に関する意見、要望を分析したものとすでに報告している³⁾。

3. 単語データのクラスター分析

3. 1 高層住民についての検討

高層住民①の回答に現れた語のうち、出現頻度が15以上の語についてのクラスターを、表1に示す。ここで、語数は54であり、これらの語の少なくとも1個を用いた回答者数は252である。クラスターは、樹形図の最初の枝別れの仕方からも、クラスターの語の示す意味からも、1) A-B、2) C～G、3) H-Iに分かれ。2)が、語数の多さからも、頻度の高い語の割合が多いことからも、周辺一戸建ての回答と意味が対照的なことから、も、①の住民の連想の主要な面を表している。まず、2)のクラスターから検討する。Cは、単語の意味としても音そのものにかかる語はない。Cは、集合住宅内での音の問題についての、抽象的、客観的な語の集まりである。Dは、集合住宅の中でのお互いの生活音に関する事である。Eは、響くの他は各戸の上下左右を表す語であって、集合住宅の建築物の構造に基づく音環境の侧面を端的に示している特徴的クラスターである。階下という語から、心遣いをする側の立場も感じられる。Fは、迷惑、注意、困るの語や、家、自分そしてお互いから、自分の家と集合住宅内での周囲との間での音の煩わしさについてである。Gは、音を出すもの、行為、音を受けることを表す語を主体とし、さらに音の気になる時間帯夜、音の授受の方向上階、下階が出てきて、

音について直接表現する語が

集まっている。このクラスターでは6語が頻度8位までにはいり、他の語も22位までで出現頻度の高い語の集まりと

表1 高層住民の使用語のクラスター

A	B	C
開部騒高静 窓け閉屋音道 中車路 運かめ	道バ イ声 路ク	高大 屬き外か風 分住い宅 外から風 人要住宅

→

D	E	F	G	H	I
生小マ近 活さンシ所 音いシ所 ヨン	と上両響 下上なり階なり	自迷注お程困 互分惑意い度る	子上気ビ聞足 にアノく音夜 供階する走る下 るき階い	深夜	防氣音使つ

なっている。2)のクラスターの意味することは、高層住宅というより集合住宅についてのものである。集合住宅、マンションも2)に含まれている。

次に1)のクラスターについて検討しよう。Aには、高速道路、道路、バイク、車という語があることからしても、建物の外の音に関心があるとともに、部屋、窓、虫などから見て、この音を建物つまり住居の中で聞いている状況であろう。ここで、騒音はまず高速道路と大きな類似度で結合している。Bは、語の集まりとしてはイメージが明かでないが、高層住宅独特のビル風についての記述が関係しているのであろう。3)に現れる語は、いかにも「音」についての感想に現れそうな語だが、クラスターとしては意味を与えにくい。

3. 2 一戸建て住民についての検討

Sの周辺の一戸建て住民の感想中の語のクラスターを表2に示す。ここでは、頻度は10以上としている。対象語数47、対象となる回答者数288である。②の方が有効回答票数が多く、頻度の閾値も低いにもかかわらず対象語数が少ないことは、音への関心が②で低いことを示しており、当然のごとく①に有ったE、Gのようなクラスターはない。また、足音は、①では17位に現れるが、②では100位までに入らない。これらのことから、高層住民と一戸建て住民の間の音環境の意識の差がすでに端的に現れている。

ここでもクラスターは樹形図の最上位での枝別れに着目すると、1) A～F、2) G、3) H、4) I のように分けられる。1)に属するクラスターは、全体としてみると家の内外の広がりの中で音に関係している。クラスターAは、生命のあるものであり、音の好ましくない面にかかわる語がない。Bでは、生活の場における音であるが、家の中で音を発する物の具体的名前を挙げていない。(それは、Hにみられる。)頻度順位10位までの語のうち9語がここに含まれる。自分と他者特に交通騒音にかかわる語がみられる。騒音はバイク、車、うるさいと同じクラスターに入っている。騒音とバイクや車が同時に語られるのが、軒先まで車の入り込む一戸建て地区の特徴になっているわけである。Cは、高速道路、深夜の語が目立つ。Dは、住居の近くの道路とそこでの工事、人や車の通行に関係しているのであろう。Eは、生活の場での音についての、観察としての記述であろう。2)のGは、クラスターとしての意味はつけにくい。3)のHでは、家の中の発音物を挙げ、隣近所との関係にかかわる語が見られる。

4. おわりに

高層住民の音意識を調べたところ、棟内での特に隣接した他家との間での音の問題に关心が強いことが分かり、これは、一戸建てにおける自分の家と近所の広がりのなかで音を考えているものと、大きな違いである。今後、都市の音環境を考えるとき、高層（あるいは集合）住宅住民の关心が、棟内に向いがちなことに留意する必要があるであろう。また、行政機関へ持ち込まれる騒音苦情を分析する際に、それが住民にとっての実状をどこまで反映しているかを推定する手がかりがえられたといえる。なお、本研究を行うにあたり、京都大学の平松幸三博士にご討論をいただきました。記して謝意を表します。

文 献

- 1) 大井ら：第44回本学術講演会第IV部門(1989)
 - 2) 大井ら：土木学会論文集、(389), 83/92(1988)
 - 3) 須賀ら：環境情報科学、17, 38/43(1988)

表2 一戸建て住民の使用語のクラスター

A	B	C
犬鳴き声 子供声 鳥聞こえる	騒音 車音 うるさい	静か 人に聞く 音楽 夜間

D	E	F	G	H	I
通入道工住 るる路事む	生環夏中前 活境	困 る	話眠 声る	テス 近迷 と惑 ピアノ 考 氣使 少 ない	住 宅